



学校だより

かけ橋

パート 2

横須賀市立汐入小学校 校長室

2013. 1. 10

No. 19

元気でやりぬく子
すすんで学ぶ子
思いやりのある子

あけましておめでとうございます



2013年が始まりました。社会的には、仕事始めは、1月4日ですが、学校にとっては、1月8日に子どもたちが登校してきて、本格的な仕事始めといった感じです。

1月8日は、みんな元気に登校しました。朝の交通指導で、子どもたちの明るい声を聞き、うれしくなりました。

この日の朝会で、次のような問題を出しました。これは、年末の新聞に出ていたもので、ある学校の4年生が作った俳句です。

あけてみて びっくりしたよ ()

「玉手箱？」というつぶやきが聞こえます。これだけでは、難しいので、もう一つ出して、同じ言葉が入りますと伝えると、ほとんどの子が、「あー！」と言いました。

() あれこれなやむ 使いみち

正解は、「お年玉」でした。さらに続けて、以下の問題を出しました。

() 一日かけて 書き終えた

「わかった、わかった。」と、1年生が大勢手をあげました。なかなか優秀だなと思って、聞いてみると、「宿題を！」という答でした。1年生らしい発想にびっくりです。3年生の方からは、「書き初めを？」という声も聞こえました。どれも間違いではありませんが、新聞に出ていた答えは、「年賀状」でした。最後は、以下のような問題です。

はれぎきて 手を合わせたよ ()

問題を読むと、「はれぎって何だろう？」というつぶやきが聞こえました。今の子どもにとって、晴れ着という言葉は、難しいのかなと思いました。初詣に、晴れ着を着ていくという考えも少なくなっているのかもしれませんが、ちなみに、汐入の子の神社の初詣客は、三が日で1616名だったそうです。

そのあと、チャレンジというテーマで、6年生の代表の人に縄跳びの難しい技を見せてもらいました。二重跳びやハヤブサなど、間近で見るとすごい技に、低学年の子どもたちはびっくりしていました。続いて、新倉先生と天野先生も縄跳びの技を見せてくれました。大歓声に包まれました。

学校の玄関は、新年になって、模様替えしています。「笑顔いっぱい汐入小」というテーマで、子どもたち一人ひとりの笑顔の写真が飾られています。来校者の方が、足を止めて見ていました。「表情がとてもいいですね。」「ついつい時間を忘れて見入ってしまいました。」そんな感想をお話ししてくれました。

1月15日(火)は、授業参観・懇談会が予定されています。ご来校いただきぜひご覧ください。



書き初め

1月9日（水）の3・4校時に、毎年恒例の書き初め大会が、行われました。4年生以上が体育館に集まって、一斉に書きます。手が冷えるといけないので、1時間以上前から、大型ストーブを焚いて、体育館を暖めておきました。また、BGMに「春の海」を流して、雰囲気盛り上げます。担任による準備は、万端です。

いつもは、使い慣れない大きな筆に苦戦しながら、頑張っていました。文字には、その人の性格が表れるとも言われていますが、小学校の場合は、書写なので、お手本と全く同じように書くことがめあてになっています。（そうは言っても、一つひとつの作品は、なかなか個性的です。）6年生は、自分で四字熟語を選んで書いています。誰がどんな言葉を選んだかも、楽しみの一つです。

成果のほどは、校内書写展（1月15日～18日）に展示されます。ぜひご来校いただきご覧ください。



ナナメの関係を取り入れて

ある教育雑誌を読んでいたら、「ナナメの関係を取り入れて「いじめ」を防ぐ」と書かれた記事が目にとまりました。本校の状況とからめてご紹介します。

今現在、学校にいる児童、保護者、教職員は、直接の当事者になります。それ以外の、学校の近くに住んでいる人や歴代の卒業生、子どもの登下校をそっと見守ってくれているおじさんやおばさんたちが、「ナナメの関係」と言われる人たちです。

「いじめ」は、いち早く兆候をつかみ、素早く対応することが大切です。そのため、学校や家庭では子どもたちの様子をしっかりと見るようにしています。しかし、登下校の様子は、なかなか見ることができません。自分の子ども時代を思い出しても、登下校の時に、身近な大人に見せない本音の部分を出していたように記憶しています。

そこで、「ななめの関係」と言われる方々が、どれだけ子どもたちに関心を持っているかが大切になります。

先日の学校評議員会で、ある評議員の方から、以下のようなお話がありました。

「近所の人のお話では、ある日下校の様子を見ていたら、学校帰りに、3人对1人で、仲間外れになっている子がいました。しばらく様子を見ていたら、3人のうちの1人が仲間はずれになっていた子に声をかけて、元にもどったとのことでした。その人は、自分の子どもころもよくあったなと思いながら、もう少ししたら、「どうしたの？」と声をかけようと思って見守っていました。」

何事もなくよかったと思うと同時に、そうやって見守ってくださる近所の方がいるのを心強く思いました。

また、本校ではないのですが、子どもたちのいたずら等へのクレームを学校に言うてくる地域の方もいるようです。しかし、そういった方も含めて、地域の方が、子どもたちに関心を寄せてくれていることが、大切だと思います。

雑誌の最後は、以下のように結ばれています。

「いじめの防止に特効薬はない。地道なナナメの関係づくりが子どもたちをいじめから守り、いじめをしない心を育てる有効な手立てになると信じている。」